

韓国岳：動植物

韓国岳の下部の斜面にはアカマツの林が繁っています。火山活動により近い場所に生育しているため、これらの木々はえびの高原のアカマツと比べると真っすぐに育っておらず、やや小ぶりです。標高が高くなると、アカマツに代わってブナやカシなどの落葉樹が増えていきます。春になると、キリシマミズキ (*Corylopsis glabrescens*) が森を可憐な黄色の花で埋め尽くします。木々の間ではウグイスやシジュウカラがさえずり、アオゲラは自分のテリトリーを主張するために木の幹をつつきます。夏には葉の間からカッコウの鳴き声が聞こえます。

山頂の四季

3合目以上（約 1,400m）になると木々がまばらになり、ミヤマキリシマ (*Rhododendron kiusianum*) やミヤコザサ (*Sasa nipponica*) などの強い植物の大群落がみられます。春になると、これらの植物はミヤマキリシマの赤みを帯びたピンク色や、ハルリンドウ (*Gentiana thunbergii*) の青紫など、味わい深い色の花を咲かせます。夏の花には白いソリウツギ、ツルウメモドキの仲間で淡い色の花を咲かせるコバノクロヅル (*Tripterygium doianum*)、トウヒレンの一種である紫のキリシマヒゴタイ (*Saussurea scaposa* Franch. & Sav.) などがあります。そのアクセントとなるのはあちらこちらに実る濃い赤色のニガイチゴやバライチゴです。秋にははるか眼下のえびの高原に銀色のススキの草原が広がり、落葉樹は真紅に色づきます。冬になると雪によって景観が一変し、白霜に覆われた木々の貴重な光景が見られます。

標高の高い部分には哺乳類や鳥類はほとんどいませんが、オニヤンマやアサギマダラなどの昆虫が多く生息しています。夏になると、特に山頂は風に吹き上げられた小さい虫を食べにやってくるトンボたちで賑わいます。